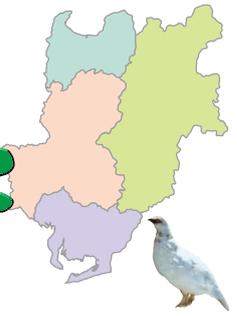




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



森林フォーラム併催行事として行われた「薪談義」の様子

多様な木材利用の創造

～薪王国信州の確立～ 「薪談義」を開催

(P 2 に関連記事)

主な項目	○「薪談義」の開催	P 2
	○治山・林道工事コンクール表彰式を開催	P 3～4
	○風景紀行「雲ノ平」	P 6

多様な木材利用の創造

森林フォーラム

薪談義の開催

「企画調整室・販売課」二月十七日、長野県塩尻市において森林フォーラム「多様な木材利用の創造」森林県から林業県へ」(主催：長野県、森林フォーラム実行委員会 共催：長野県政協議会、自然エネルギー信州ネット) が行われました。

約二六〇人が参加し、県産材の需要拡大等に向け意見を交わしました。

フォーラムの中ではタウンミーティングとして阿部守一長野県知事が鈴木中部森林管理局長、「信州F・POWERプロジェクト」に取り組む征矢野建材株式会社 櫻井秀彌氏、作家の浜田久美子氏と意見交換を行いました。

阿部知事は「信州F・POWERプロ



森林フォーラムで木材需要拡大に関し提案をする鈴木局長 (左は阿部長野県知事)



薪談義での意見交換の様子

ジェクトを新しい森林づくりのモデルとして全国に発信していきたい」、櫻井氏は「広葉樹を有効利用し世界的なマーケットに打って出たい」とプロジェクトへの思いを語り、鈴木局長からは「木材の需要拡大のためには住宅以外の分野をいかに広げていくかが重要。酒樽や風呂桶に木を復活させる運動をしてはどうか」といった提案がありました。

また、森林フォーラムの併催行事として行われた「薪談義」薪王国信州の確立(主催：長野県政協議会)には新聞屋、薪ストーブ業者、素材生産業者等約六〇人が参加し、身近な暖房である薪について活発な意見交換が行われました。

意見交換に先立ち、週間チャコルタイムスの杉山博雅氏から薪の規格と最近

の市場情勢についての報告がされました。参加者からは「需要はもつとあるはずだが、流通が見えず直接販売することができない」、「燃料業界と薪生産者の接点がない」など、需要側と供給側の結びつきをどう図っていくか、薪の規格の統一化など、市場の要求にあわせた供給体制の整備が課題であること等が意見として出されました。中部森林管理局では今後、長野県などと連携して薪供給・需要・流通者間の連携等を図っていくこととしていきます。

カラマツ黄葉写真コンテスト

表彰式を開催

【総務課広報】二月二十二日、中部森林管理局局長室において、「カラマツ黄葉写真コンテスト」の表彰式を開催しました。当日の表彰式には、最優秀賞受賞者を含む三名の入賞者と主催者、協賛・後援者等が参加して行われ、冒頭、主催者である鈴木局長から、開催趣旨や入賞作品の活用策などを交えたあいさつを、続いて審査結果を発表した後、入賞者に対し、各賞の代表者から表彰状(ヒノキ製の楯)を授与しました。副賞として、協賛者のご協力により、最優秀賞には漆塗りのサワラ材寿司桶、優秀賞にはヒノキ製湯桶セットが贈られました。

その後の懇談では、入賞者から「太陽



最優秀賞の副賞を贈る (左は受賞者の井上さん、右は鈴木局長)

の光線がカラマツに当たった一瞬のチャンスをつ捉えた」写真を撮りに何日も山へ通った」など、撮影に関するエピソードも披露されました。



撮影に関するエピソードなどを披露



入賞者と主催者・後援者等

今回、初めてのフォトコンテスト開催ではありましたが、地元紙にも取り上げてもらい、開催趣旨である「信州カラマツを観光資源としても評価してもらおう」一つの契機となったのではないかと考えているところです。

平成二十四年度

治山・林道工事コンクール表彰式を開催

〔森林整備課・治山課〕三月六日、中部森林管理局において、平成二十四年度治山・林道工事コンクール表彰式を開催しました。

このコンクールは、治山工事及び林道工事の適正化並びに施工技術の向上、意欲の高揚を図り、併せて設計技術の向上に資することを目的に治山部門は昭和四十二年度、林道部門は昭和四十四年度から実施しています。

前年度に中部森林管理局管内で施工した、治山工事百二十三件、林道等工事四十八件を対象に施工管理全般及び安全管理について審査を行い、治山部門で十五件、林道部門で五件を優良工事として選出し、この中から、優秀工事として治山部門二件・林道部門一件を林野庁表彰に推薦し、林野庁長官賞を受賞しました。

また、優良工事として選出した、治山部門の十一件、林道部門の五件と、林野庁長官賞を受賞した工事の現場代理人、主任技術者並びに監督職員が中部森林管理局局長賞を受賞しました。

六日の表彰式は、中部局管内の長野県内で施工した治山及び林道工事の受賞者に対し行われ、松本森林整備部長が審査報告をした後、鈴木局長より表彰状の授与を行いました。



審査報告を行う松本森林整備部長

また、富山県、岐阜県、愛知県内で工事を施工した受賞者に対する表彰状伝達式は、十二日に名古屋市内で行われ、田中次長（名古屋事務所長）から表彰状を授与（伝達）しました。



表彰状の授与



受賞者の皆さんと（局）



受賞者の皆さんと（名古屋事務所）

なお、林野庁長官賞の授与式は、局長表彰に先立ち、二月二十一日東京において行われました。各賞の受賞者は次のとおりです。

◎林野庁長官賞

〔治山工事部門〕

株式会社三六組
平成 23 年度サ沢河復旧治山工事
（飯田市）

〔林道工事部門〕

協業組合日・C建設
舟原山（栃洞谷支溪）復旧治山工事
（飛騨市）

（伊那谷総合）

（飛騨市）

（飛騨署）

〔林道工事部門〕

◇橋本建設株式会社 (高山市)

◇中山(一)作業道新設工事 (飛騨市)

◎中部森林管理局長賞

〔治山工事部門〕

◇北野建設株式会社 (長野市)

◇湯ノ入川2復旧治山工事 (北信署)

◇株式会社傳刀組 (大町市)

◇唐松沢復旧治山工事 (中信署)

◇金森建設株式会社 (大町市)

◇大渚地すべり防止工事 (中信用)

◇宮下建設株式会社 (伊那市)

◇歌宿沢復旧治山工事 (南信署)

◇伊藤建設株式会社 (魚津市)

◇阿部木谷2復旧治山工事 (富山署)

◇株式会社洞口 (飛騨市)

◇黒内(ふくろ)洞支溪)復旧治山工事 (飛騨署)

◇株式会社柳組 (飛騨市)

◇大谷(モトメ)谷支溪A)復旧治山工事 (飛騨署)

◇日下部建設株式会社 (飛騨署)

◇馬瀬(北俣谷)復旧治山工事 (下呂市)

◇西濃建設株式会社 (岐阜署)

◇榎原谷(東谷)復旧治山工事 (揖斐川町)

◇株式会社阿佐木建設 (岐阜署)

◇株式会社阿佐木建設 (中津川市)

◇中津川(落合2)復旧治山工事 (中津川市)

◇株式会社加地工務店 (東濃署)

◇西股(ガケガ沢)復旧治山工事 (中津川市)

◇東濃署 (東濃署)

◇東濃署 (東濃署)

◇東濃署 (東濃署)

〔林道工事部門〕

◇川瀬建設株式会社 (松本市)

◇黒川支線作業道新設工事(2) (中信用)

◇株式会社新宅組 (木曾町)

◇フカ沢林業専用道新設工事 (木曾署)

◇大宗土建株式会社 (南木曾町)

◇中ノ沢林業専用道新設工事 (南木曾町)

◇岩佐土木株式会社 (南木曾支署)

◇落合60林班(濁河)その2作業道新設工 (下呂市)

◇事 (岐阜署)

〔現場代理人、主任技術者及び監督職員部門〕

◇平成23年度平沢向復旧治山工事

株式会社三六組

現場代理人 新井 英博

主任技術者 片桐 茂昭

監督職員 帆足 郁

伊那谷総合治山事業所

監督職員 帆足 郁

◇舟原山(枋洞谷支溪)復旧治山工事

協業組合H・C建設

主任技術者 中矢 邦裕

飛騨森林管理署

監督職員 井上 智之

◇中山(一)作業道新設工事

橋本建設株式会社

主任技術者 田之尻 和郎

飛騨森林管理署

監督職員 貴田 雅規

各地からのたより

東三河流域新城地区 森林整備推進協定が締結される

〔愛知所〕平成二十五年三月七日、中部森林管理局愛知森林管理事務所の会議室において「東三河流域新城地区森林整備推進協定」が締結されました。

本協定は、民有林と国有林が連携して森林の持つ多面的機能の持続的發揮、木材の安定供給等の推進に加え、国・県・市が協調した研修の共同開催などに取り組みことを目的に、当所と新城市、愛知県新城設楽農林水産事務所、愛知県県有林事務所、愛知県森林・林業技術センターの五者間で締結しました。



協定を締結した5者 (左から2人目が岩井愛知所長)

調印後、穂積市長は「新城地域は奥三河に総称され古くから林業地帯として名をはせていたが、近年厳しい状況になっており、今回、国有林と民有林が幅広い協定・共同実施を見据えた協定が結ばれ、連携し流域の森林を共同資源として守り育てていくことが明文化された。新城市としても協定の精神・内容を重視し、皆さんとスクラムを組んで取り組んでいきたい。」と挨拶されました。

協定締結後、設定する予定の森林施業団地は、民有林四七九畝、国有林一九四畝で総面積六七三畝です。

森林整備計画では、協定期間の五年間で民有林と国有林併せて約三八畝の森林整備と国有林では七九五方畝の間伐材の搬出を予定しています。

今後、民有林と国有林が一体となり森林整備団地実施計画の作成等を行う予定です。



〔愛知森林管理事務所田口森林事務所〕

藤村 桂 森林官

田口森林事務所は、愛知県東部の東三河に位置し、北設楽郡設楽町に所在する段戸国有林、榎原国有林、一の又国有林の約二、八〇〇畝と、官行造林地約七二畝を管理しています。

また、清崎野木土場の管理もしてお

り、愛知森林管理事務所管内の各国有林から搬出された材の受け入れ、素材公売等で販売した物件の引き渡し、請負で実行する素材検知・巻立の監督業務も行っていきます。



清崎貯木土場のヒノキ材

愛知県東三河流域は「三河材」の主要な産地として古くから林業が盛んに行われています。当事務所管内国有林は、ヒノキを中心とした人工林となっており、冬場の積雪は平均四〇センチ程度と比較的少ないことから、年間を通して造林・生産事業を実行しています。

管理している国有林の中でも主体となつているのが、豊川と矢作川の水源地となる段戸国有林です。水源涵養等の保安林に指定されていることから、森林の保水能力を高め良質な水を安定的に供給するため複層林施策を進めつつ、林産物の計画的・安定供給に向けた適切な保全

管理に努めています。

また、段戸国有林駒ヶ原地域には九〇年生以上のヒノキ人工林があり、生産請負による高齢級間伐も計画的に実施しています。そういった中、本年度より一〇〇年生を越える高品質なヒノキ優良材については『段戸S.A.N』とブランド化し、清崎貯木土場における公売や委託市場でより付加価値が高まるようPRに取り組んでいます。



段戸国有林の高齢級間伐実施林分

現場班は、基幹作業職員一名と臨時作業員一名の二名体制で、歩道修理・林道の維持修繕・収穫調査・境界巡検等多岐に亘っています。

管内の作業地の中には、ササが多く急傾斜地等作業環境の悪い箇所もあり、また作業内容も日々変わることから、毎朝森林事務所で作業の打ち合わせと、当日

の行動予定を確認し、安全作業に取り組んでいます。

田口森林事務所での勤務は今年度で四年目になります。今後も無災害の継続と、また、各事業が円滑に進行するように取り組み、日々の業務に励みたいと思います。



田口森林事務所職員と藤村森林官(左から2人目が森林官)

行事・会議等の予定

◎森林管理署長等会議

4月16・17日 長野市

◎地域林政調整官及び森林技術指導官会議

議

4月18・19日 長野市

◎林道設計説明会

4月24・25日 長野市

◎生産・販売業務打合せ会議

4月25・26日 長野市

お知らせ 木炭及び木炭コンロを展示中

調理や暖房などに利用されている木炭は、萌芽力が旺盛なナラやカシなどを原料とする木質バイオマスエネルギーであり、森林の健全な育成や地域経済の安定にも大きな役割を果たしています。また、災害時に電気やガスが寸断されても木炭なら使用することができます。現在、中部森林管理局の一階ホールにて国産木炭(黒炭)や蓋をすることで消火できるコンロなどを展示していますので、ぜひご覧ください。





雲ノ平、黒部五郎岳、白山

ふう けい き こう
風景紀行
雲ノ平
 95
 富山森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

北アルプスの最奥地

「富山署」富山県富山市の黒部川源流部に位置する溶岩台地に雲ノ平があります。

雲ノ平は祖父岳（じいだけ）火山の噴火により形成され、黒部川の本流とその支流岩苔小谷に挟まれた標高二、四〇〇

〜二、七〇〇メートルの日本で最も高標高にある溶岩台地で、面積は約二五ヘクタールです。

池塘と岩が点在する高山植物の宝庫で、日本庭園やスイス庭園などと名付けられた群落地が庭園のように拡がっており、ことに岩と地面に張りつくようにびっしり咲いたキバナシャクナゲは見事です。

雲ノ平は北アルプスの最奥地に位置するため、どの登山道からでも当日中にたどり着くことは困難とされ、日本最後の秘境と呼ばれています。また、雲ノ平では、地域の方々と協働で登山道周辺の植生復元を行っています。復元の実行にあたっては、山小屋、大学、森

林管理署が連携して専門家の意見も踏まえながら取り組んでいます。



キバナシャクナゲ



池塘



有峰湖



有峰文化村の施設

◎アクセス

(所在地) 富山県富山市黒部川源流部
 ○車でお越しの場合(富山県側からのルート)

北陸自動車道立山ICから岩嶮寺、有峰口を経由し有峰林道(有料)から折立(登山口)。折立から、太郎平、薬師沢を経て雲ノ平に到達する。立山ICから登山口まで車で約一時間三〇分、登山口から雲ノ平へは一日半を要する。

【周辺施設等】

有峰森林文化村・有峰ダムを中心に、キャンプ場、宿泊施設、遊歩道等が整備され自然を満喫できます。